

健康都市連合日本支部第1回大会

(開会)

(支部長挨拶)

千葉市長:ただいまご紹介にあずかりました、市川市の千葉光行でございます。まず始めに、第1回目の総会が先ほど無事終了しましたことを、報告いたします。本日は大変お忙しい中、皆様にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。本日は新しく正会員となられた多治見市の西寺市長を始め、日本支部5市の正会員の他、全国から21市の自治体の皆様にお越しいただいております。また浦安市の松崎市長にもおいでいただいております。厚く御礼申し上げます。また、東京医科歯科大学大学院教授、そしてWHO健康都市研究協力センター所長の高野健人先生や東京医科歯科大学助教授、WHO健康都市連合事務局の中村桂子先生にもお越しいただきましたことに、深く御礼申し上げます。まず、WHOの精神に基づく健康都市連合日本支部が設立しました経緯についてご報告させていただきます。一昨年、フィリピンのマニラ市でWHO健康都市連合の設立準備会議が開催され、昨年、マレーシアのクチン市でアジア西太平洋地域から22都市・団体が集まり、WHO西太平洋地域の設立総会が開催されました。日本からは今日おいでいただいております、平良市の伊志嶺市長、尾張旭市の谷口市長と市川市長の3市が参加いたしました。1980年代から、ヨーロッパにおいては健康都市を推進する都市が約2,000市集まりネットワークが出来上がっていましたが、これまでアジアにはそういった組織がなかったということで、昨年、WHOの健康都市連合が出来上がったわけです。同時にこの連合には、各国で支部を設立するという規約があります。日本に支部がないというのもおかしいということで、今年4月に沖縄県平良市で日本支部の設立会議が開催されました。そして7月に、この健康都市連合第1回設立会議が開催ということで、やや準備が十分ではない面もあるかと思えます。全国から26市参加というのは少ないのではないかという意見もあるかもしれませんが、事務局であります市川市としましては、3ヶ月という大変短い準備期間の中、全国から26市ご参加いただけたということをお大変嬉しく思っております。次に、このWHO健康都市とはどういうものなのかということについてお話をさせていただきます。WHOの提唱する健康都市とは、健康をキーワードにまちづくりを進めていこうというものです。具体的に言いますと、まちの健康、社会の健康、文化、心の健康というように、相対的に健康について考えながらまちづくりを進めていこうというものです。行政はどうしても縦割りになりやすい傾向がありますが、そうしたキーワードを使いながら縦割りに横串をさしていくという考えの中で、例えば道路一つを作るにしても、バリアフリーの道作りや駅のバリアフリー化を意識したり、というように、まちづくり一つ考えてもいろいろなことがいえると考えております。また、水や空気というものも、一人だけでは守りきることはできません。まちづくり全体の中で、あるいはいろいろ

いろいろな角度から環境問題について考えることで、まちの健康というものが出来上がって行くわけです。また心の健康についても、歴史、社会などの文化によって心が安らぐまち、そういうものも健康というキーワードではないかと思えます。このように各市町村が、健康を意識した自分達のまちの独自の取り組みを発表してもらい、互いに連携しながらネットワークを作ることによって、お互いの利点を学び合っていこうというものです。同時に、それらの問題をアジアや世界に発信することによって、各国の都市が学び合うということが大切になるのではないかと思います。日本が先進国と言われている中で、日本が今行っていることをアジアに発信することによって、アジアの皆さんが私たちから何かを学び、私達もアジアの皆さんから何かを学ぶといういろいろな意味で都市間連携につながっていく、そのことが逆に申し上げますと、アジアの平和、世界の平和へとつながっていくのだと思います。昨年行われましたマレーシアのクチン市での会議で、市川市は健康都市プロジェクト賞を受賞し、5月にはフィリピンのマリキナ市から職員の研修を受け入れました。この秋には市川市からマリキナ市へ訪問させていただき、食生活改善事業を始めいろいろなことをお互いに学んでいく予定です。今回第1回目の大会で、いろいろ至らない点もあるかと思いますが、一步一步しっかりと歩いていきたいと思っております。そのためには、市民の皆様方、日本の国民の皆様のご理解が不可欠だと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平野課長:ありがとうございました。続きまして、WHO健康都市研究協力センター所長、高野健人先生からご挨拶をいただきます。高野先生には、WHO西太平洋地域事務所の尾身茂局長からのメッセージもお預かりいただいております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

高野教授: ご紹介いただきました、高野です。本日は健康都市連合日本支部第1回大会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。会員であります、市川市、平良市、尾張旭市、袋井市、多治見市の各市長の方々、ご関係者の方々、また参加されました自治体の方々、関係機関の方々、市民の方々、すべての皆様に本日の大会開催を心よりお喜び申し上げます。まず始めに、WHO西太平洋地域事務局長尾身茂事務局長から、本大会への正式のメッセージを託されておりますので、代読させていただきます。(メッセージ代読)

尾身局長のメッセージにもありましたように、健康都市プログラムは今世界の各都市において大変注目されている、新しい手法の総括的な住民の健康と質の高い生活を推進するプログラムです。これはもちろん、一つ一つの都市がその固有の条件において取り組むものではありませんが、同時に同じ志を持つ世界の国々の各都市が、互いに経験や情報を共有してWHOとの密接な協力のもと推し進めることは、大変重要なことと思っております。私ども健康都市に関しまして、WHOより研究協力センターに指名されております。日本の健康都市のために、世界の健康都市のために、広い意味での研究を通じ

まして、私どもの研究の成果を還元することを通して、皆様方のお役にたいと願っております。日本支部のますますのご発展をお祈りいたします。本日は本当におめでとうございました。

平野課長： 健康都市連合及び日本支部会員市、来賓の紹介、祝電（習志野市）の紹介
参加自治体の紹介

WHO西太平洋地域事務局長メッセージ



MESSAGE

On behalf of the World Health Organization, it is with pleasure that I congratulate the Japan Chapter of the Alliance for Healthy Cities for taking the initiative to organize its First General Assembly and Conference.

I understand that the founding city members of the Alliance for Healthy Cities in Japan – Ichikawa City, Hirara City, Owariasahi City and Fukuroi City – are collaborating to expand the Healthy Cities movement to other cities in Japan, as well as actively sharing the information and experience of their Healthy Cities activities with other cities around the world. Their efforts are commended.

Since its establishment in 2004, the Alliance for Healthy Cities has continually expanded its membership. Now there are 22 member cities benefiting from Alliance activities. National chapters have also been established in Japan and China. I am pleased to see such growth of the Alliance in such a short period.

At the Inaugural General Assembly and International Conference on Healthy Cities in Kuching, Malaysia, in October 2004, WHO provided awards to those members implementing innovative and outstanding Healthy Cities activities. As more cities join the Alliance, we will continue to provide awards for best practices in Healthy Cities to encourage all Alliance members to adopt these practices.

I assure you the continued support of WHO for Healthy Cities through the Alliance for Healthy Cities.

A handwritten signature in black ink that reads "Shigeru Omi".

Shigeru Omi, MD, Ph.D.
Regional Director
WHO Regional Office for the Western Pacific



メッセージ

健康都市連合日本支部が第1回総会及び大会を開催されるにあたり WHO（世界保健機関）を代表して祝辞を申し上げることを喜ばしく思います。

健康都市連合設立正会員である市川市、平良市、尾張旭市、袋井市が連携をはかり日本の諸都市に健康づくりを広め、また世界各地の都市と健康都市にかかわる情報交換や交流を積極的に進められているとうかがいました。このような日本支部の取り組みは、賞賛に値するものであります。

健康都市連合は2004年に設立以来着実に会員数をのばし、現在、22都市が正会員として参加し、健康都市連合の活動を各都市の活動に役立てています。また、日本と中国ではそれぞれ国内支部が設立されました。きわめて短い期間に健康都市連合がこのような発展を遂げていることを喜ばしく思います。

2004年10月にマレーシア国クチン市で開催された健康都市連合設立総会及び国際会議において、WHOは斬新で優れた健康都市の取り組みを行った会員都市の表彰を行いました。健康都市連合に参加する都市会員数の増加に伴い、すべての会員都市において優れた健康都市づくりが展開されるよう、WHOは表彰を継続いたします。

WHOが健康都市連合を通じて、引き続き健康都市づくりの支援をすることを、ここにお約束いたします。

尾身 茂 医学博士
WHO西太平洋地域事務局長